

# 2 帯状疱疹

## 1 概説

水痘・帯状発疹ウイルスによる皮膚病である。神経走行に沿って神経痛・発疹が認められる。

## 2 中医病名

「蛇串瘡」「蛇丹」「纏腰火丹」など。

## 3 症状の特徴

- 50代以上の高齢者に多発する傾向がある。
- 発症部位として胸腋・腰・顔面・臀部が多く、その次に肋間神経領域、次いで頸部・三叉神経領域・腰部に好発する。
- 発症する前に、片側局所の一定の神経支配領域に感覚過敏または神経痛が現れ、2～3日後に同部に一致して浮腫性紅斑が発生する。紅斑部に小水疱が集簇性に現れ、皮膚感覚神経分布区域に一致して片側性の帯状に配列する。皮膚の痛みが目立ち、高齢者ほど痛みが強く感じられる。一般的に正中線を越えない。
- 初期の水疱液は透明で、一部の水疱に臍様の凹みが認められる。水疱は1週間くらいで混濁・結痂し、その後、色素沈着となり、3～4週で治癒する。ひどい場合は一部が膿疱化したり、出血性のものがみられ、融合して壊疽性となり、瘢痕が残る。発疹が消失した後も神経痛が残ることが多い。痛みが激しい場合は高度の不眠を訴えるケースがある。
- 特殊なものとして眼部の帯状発疹がある。三叉神経の損傷があるので、上眼瞼・額部または頭頂部に紅暈を伴う集簇性水疱がみられ、激しい痛みがある。場合によって角膜・眼球に炎症を引き起こし、失明に至ることもありうる。
- 顔の運動神経・感覚神経に障害を与え、顔面神経麻痺・耳の痛み・内耳の障害・耳道部の発疹が認められる場合があり、ラムゼイ・ハント症候群と呼ばれている。



胸の帯状水疱



指の集簇性水疱

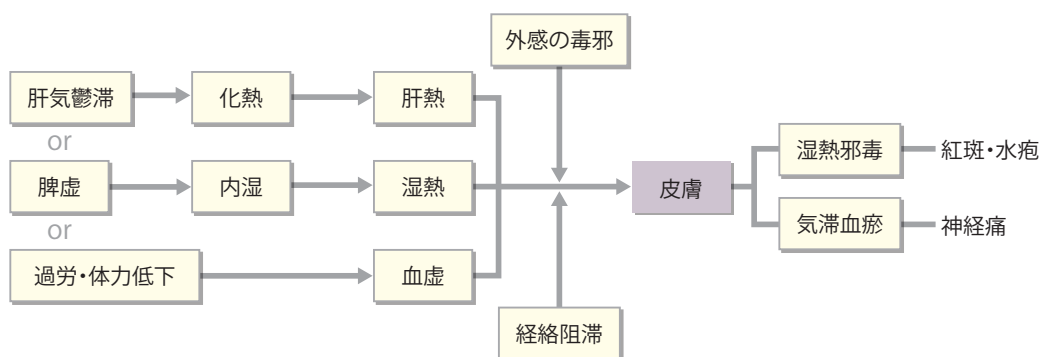
## 4 鑑別診断

- 単純疱疹：鼻孔部・口唇・外陰部に好発する。帯状の配列はなく，神経痛を伴わない。
- 接触性皮膚炎：接触部位に局限して浮腫性紅斑・水疱がみられ，境界が鮮明。アレルギーに接触した病歴がある。

## 5 病因病機

情志内傷によって肝鬱となり，さらに過熱し肝經火毒が皮膚に鬱滞する。または脾虚湿盛が化熱して湿熱となり，皮膚に影響し紅斑・水疱となる。

また，過労・高齢者の体力低下・血虚などに，さらに毒邪・湿熱の停滞が加わることによって皮膚に湿毒が停滞し，氣滯血瘀によって紅斑・水疱・痛みが起こる。



## 6 弁証論治

| 証型   | 症状   | 治則        | 処方   |
|------|--|-----------|--|
| 肝胆湿熱 | 顔・胸脇の発疹。帯状の紅斑・水疱。口渇・便秘・イライラ・痛み。舌質紅・舌苔黄膩。脈弦滑。     | 清熱利湿・瀉肝解毒 | 竜胆瀉肝湯加減<br>竜胆草 10g, 柴胡 10g, 黄芩 10g, 山梔子 10g, 地黄 15g, 沢瀉 10g, 車前子 10g, 木通 10g, 当帰 12g, 甘草 6g<br>+紫根 10g, 板藍根 15g, 野菊花 10g<br>エキス製剤<br>竜胆瀉肝湯 |
| 脾胃湿熱 | 腹部・大腿部の発疹。帯状の紅斑・水疱。口渇・便秘・腹部の膨満感・吐き気。舌質紅・舌苔黄。脈滑数。 | 健脾利湿・清熱解毒 | 除湿胃苓湯加減<br>蒼朮 10g, 厚朴 10g, 陳皮 10g, 茯苓 15g, 猪苓 10g, 沢瀉 10g, 白朮 10g, 防風 10g, 滑石 15g, 木通 10g,<br>+馬齒莧 15g, 板藍根 15g<br>エキス製剤<br>胃苓湯+五行草・板藍根など  |

|             |   |                  |  |
|-------------|---|------------------|--|
| <p>気滞血瘀</p> | <p>高齢患者に多くみられ，血瘀・神経痛がひどい。または発疹が消失しても痛みが残り続ける。</p> | <p>理気活血・通絡止痛</p> | <p><b>桃紅四物湯加減</b><br/>         桃仁 10g，紅花 8g，赤芍 12g，川芎 10g，当帰 10g，白芍 12g<br/>         +牛膝 10g，鬱金 10g，川楝子 10g，牡蛎 15g，丹参 10g，馬齒莧 15g，板藍根 15g，痛みが激しいときには，延胡索 10g，田七人參 10g を加える。<br/> <b>エキス製剤</b><br/>         血府逐瘀湯または冠元顆粒など。</p> |
|-------------|---|------------------|--|

## 7 外用

- 紫根 10g，苦参 10g，板藍根 15g，馬齒莧 15g，大青葉 15g，蒲公英 10g を水で煎じて患部に湿布する。初期に水疱がみられるときによい。
- 大黃・黄柏・黄芩・苦参・地榆・五倍子各等分を水で煎じて患部に湿布する。水疱が破れ，滲出がみられるときによい。
- 鬱金・鷄血藤・赤芍・大黃・乳香・没薬各等分を水で煎じて患部に湿布する。神経痛が持続しているときによい。
- 青黛末・紫根末・田七人參末各等分をゴマ油で混合し，患部に塗布する。糜爛面によい。
- 黄金万紅膏または三黄軟膏を患部に塗布する。

## 8 養生

- 患部を清潔にし，二次感染を防ぐ。
- 辛いもの，刺激の強い食べものを避ける。
- よく安静にし，過労を避ける。